

Daily Report (号外)

～FOMCの結果について～

概要

米連邦準備制度理事会(FRB)は、7月28-29日の米連邦公開市場委員会(FOMC)で、フェデラルファンド金利(FF金利)の誘導目標を0～0.25%に据え置きました。また、FRBはFOMC声明文発表に先立って、新型コロナウイルスの感染拡大による金融市場の信用逼迫を防ぐために投入した緊急信用緩和プログラムのうち、7つのプログラムの期限を2020年9月末から2020年12月末へ延長することを発表しています。

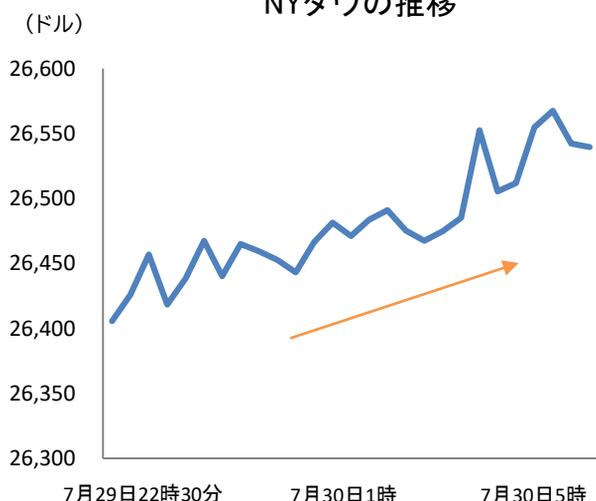
声明文では、「経済活動と雇用は急激な落ち込みの後、足もと数カ月は幾分上向いてきたものの、年初の水準をなお大幅に下回っている」との認識に加え、「経済活動の道筋はウイルスを巡る状況に大きく左右される。進行中の公衆衛生の危機は短期的に経済活動、雇用、インフレの大きな重しとなり、中期的な経済見通しに著しいリスクをもたらすだろう」と述べ、新型コロナウイルスの感染拡大が及ぼす不確実性を重視する、先行きに対する慎重な姿勢を改めて示しました。

市場の反応

昨夜の米国株式市場では、米国議会で議論されている追加財政政策協議の遅れが引き続き不安材料となったものの、FOMCの結果を受けて金融緩和が長期化するとの見方が広がり、NYダウは前日比160.29ドル高の26,539.57ドルで終わりました。

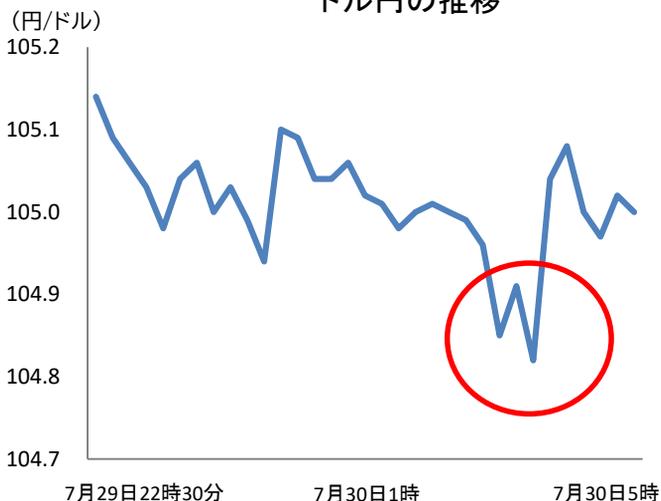
外国為替市場では、足もとではドル売りが続き総合的なドルの強さを示すドル指数が約2年ぶりの低水準まで低下している中で金融緩和長期化観測が重なり、円相場は一時1ドル＝104円台後半までドル安円高が進みました。

NYダウの推移



(期間)2020/7/29 22:30～7/30/5:00 日本時間
(出所)Bloomberg

ドル円の推移



(期間)2020/7/29 22:30～7/30/5:00 日本時間
(出所)Bloomberg

評価及び今後の見通し

FRBは、9月のFOMCで金融政策の枠組み見直しを予定していることから、その前哨戦となる今回のFOMCでは主だった政策変更は無く、市場の事前予想どおり無風で終わりました。寧ろ、政策見直し後の政策調整の行方に関心が高まっていたこともあり、FOMC後の会見でパウエル議長が今後の追加金融緩和策に言及したことは、改めて市場の金融緩和観測を強めたと見ています。

米国では、議会で追加財政政策が議論されていることに歩調を合わせてFRBも金融緩和策の強化により、景気回復を支え続けるスタンスを明確にすることが想定されます。

具体的には、金融緩和を強化する手法として、緩和期間の具体的提示や利上げ基準の提示といったフォワードガイダンスの強化やイーールド・カーブ・コントロール政策の採用が選択肢と見られており、暫くは政策変更の行方に神経質な地合いが続くことを予想しています。

(ご参考)今後の主要イベント

	日本	米国	欧州
9月	17日:日銀政策決定会合	15-16日:FOMC	10日:ECB理事会

出所: Bloomberg